

あなたの街の
ドクターが
アドバイス



外来でできる認知症の画像診断
「VSRAD」「eZIS」

認知症は、脳萎縮を調べるVSRAD検査、 脳血流を調べるeZIS検査でわかります

認知症の画像診断には、脳の萎縮を調べるMRIによる「VSRAD（ブイエスラド）」と、脳血流を調べるSPECT（スペクト）による「eZIS（イージス）」の二種類があります。脳MRIは、脳に認知症の原因となる病気がないかどうかを調べる検査ですが、脳の萎縮の程度もわかります。早期アルツハイマー型認知症診断支援システムであるVSRADで画像を解析すると、脳の萎縮の程度が色付けされて表示されます。脳全体の中での萎縮した脳の割合や、認知症に関連する海馬（記憶などに関わる脳の器官）の萎縮の程度もわかります。

もう一つの認知症の画像診断として、脳血流を調べるSPECTによるeZISがあります。SPECTは、ラジオアイソトープ（放射性同位元素）で標識した放射性医薬品を使用して、脳の血流を測定する検査です。脳の機能が低下すると血流が低下しますが、認知症の原因によって血流の低下する部分が異なることがわかってきました。SPECTの画像を統計解析するeZISにより、脳の血流の低下しているところが色付けで表示され、血流低下のパターンを確認でき、認知症の原因を診断するために役立ちます。特に早期のアルツハイマー型認知症の診断に有用で、年相応よりも物忘れが少し多い状態である「軽度認知機能障害」でも、SPECT検査で脳血流の低下がわかる場合があります。さらに「アルツハイマー型認知症ではないか」と、物忘れが気になる方でもeZISで血流低下が無い場合にはアルツハイマー型認知症ではない可能性が高くなり、安心できるかもしれません。

いずれの画像診断も外来でできる検査です。しかし認知症の診断で「一番大事なことは、認知機能の低下（物忘れ）の程度を調べる検査」といつから症状が始まったかなどの経過の情報ですので、あくまで画像診断は補助診断として有用であるということを忘れないでください。

お話ししてください先生



医療法人明日佳
札幌宮の沢脳神経外科病院 院長
松村 茂樹先生

札幌医科大学卒業後、脳神経外科学講座入局。市立室蘭総合病院脳神経外科部長を経て、平成17年高橋脳神経外科病院院長（現札幌宮の沢脳神経外科病院内）。日本脳神経外科学会脳神経外科専門医